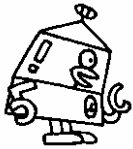


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /  
魚の卵の成長 / 理解シート

## さんらん メダカの産卵は、どうすれば見られるの



メダカがたまごを産む時期になったら、夜明け前に起きて、水そうを観察していると見られるよ。

メダカがたまごを産むのは、水温が18℃以上になった、明け方

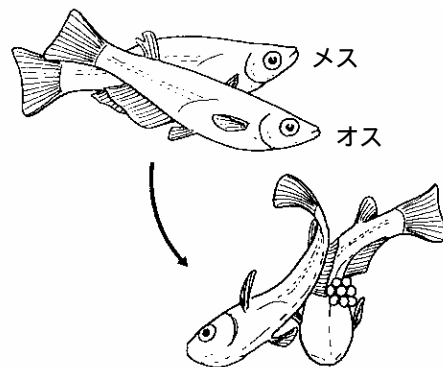
メダカは、水温が18℃をこえる4月中ごろから9月ぐらいまでが産卵期で、1匹が数回、早朝にたまごを産みます。たくさん飼っていると、毎日のようにどれかがおなかにたまごをつけていますから、早起きして水そうを観察しましょう。

ぬのたん布や段ボールで水そうを暗くしておき、観察したいとき（午前中がよい）、おおいをとって明るくすると、夜明けとかんちがいしてメダカが産卵することがあります。この方法なら、朝早くでなくても、産卵を見ることができます。

メダカがたまごを産むときは、オスとメスが協力しあう

メダカは、夜が明けるところ、オスがたまごを産みそうなメスを追いかけはじめます。やがてならんで泳ぐようになり、両方が体をすり合わせるようにすると、10つぐらいのたまごがメスの腹から出てきます。そのとき、注意して見ていると、オスの体からも、白い液えきのようなものが出ています。精子せいしというものをふくんだ液です。この精子がふりかけられたたまごは、やがてふ化しますが、そうでないたまごは、くさったり、かびがはえたりして、子魚は生まれてきません。

精子とたまごが一つになることを受精じゆせいといい、受精したたまご（受精卵じゆせいらん）でないと、ふ化しないのです。精子には、オスの性質せいしつや体質を伝える（遺伝子いでんし）ものが入っていて、たまごと一つになって、両親の性質が子どもや子孫に伝わっていきます。



メスとオスが体をすりあわせて産卵する